

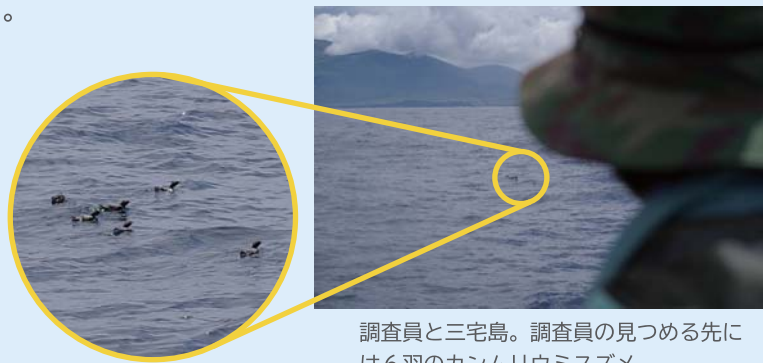


公益財団法人日本野鳥の会
カンムリウミスズメ保護事業
2021年度 活動報告書

三宅島のカンムリウミスズメ洋上調査

三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館では1996年から毎年三宅島近海でモニタリング調査を実施しています。今年度も島内の自然ガイドと協力して実施しました。4月18日と25日の2日間、阿古漁港から漁船に乗ってカンムリウミスズメがいそうな潮目を中心に探しながら繁殖地の大野原島（通称：三本岳）を目指します。2～7羽程度の小さな群れで見られることが多く、3時間ほどの調査でそれぞれ45羽、48羽ものカンムリウミスズメが確認されました。また両日ともに三本岳の東側2 kmほど離れた海域で多く見られました。

カンムリウミスズメは沖合で見られるため、アカコッコ館のレンジャーでも普段見る機会はありません。今年も無事に戻ってきた事に安心するとともに、いつの間にかいなくなっていたということがないように、多くの人にその存在を知ってもらい関心を持ってもらえたらと思います。



調査員と三宅島。調査員の見つめる先には6羽のカンムリウミスズメ。

Strix (野鳥学論文誌) vol.38

Strixに三宅島の大野原島で行った早朝洋上調査の結果「スポットライトサーベイ法による大野原島周辺のカンムリウミスズメの個体数の再評価」が掲載されました。

ご購入はこちら↓



ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の活動は皆さまからの会費やご寄付によって支えられています。気軽にご支援いただけるように、さまざまな形のご寄付・ご支援の方法をご案内させていただいています。野鳥をはじめとした多くの生き物が暮らす豊かな自然環境を守るための活動に、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆お申し込み・お問い合わせ

共生推進企画室

TEL : 03-5436-2630 e-mail : kifu@wbsj.org

HP : <https://www.wbsj.org/>



シルバーブローチ
(一口5000円・
プレゼント付き寄付)



バードメイト
(一口1000円・プレゼント付き寄付)

カンムリウミスズメ保護事業 2021年度活動報告書

公益財団法人日本野鳥の会
自然保護室

東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

TEL 03-5436-2634 FAX 03-5436-2635

2023年1月31日発行

最新情報はこちら

カンムリウミスズメの保護活動の最新情報や調査結果の速報、特徴や生態などをホームページやSNSでお知らせしています。日本野鳥の会ホームページの「当会の活動 - 自然保護活動について - 絶滅危惧種の保護 - カンムリウミスズメ」に掲載しています。TwitterやYouTube、Facebookへもリンクしています。

Annual Report 2021



日本野鳥の会は、1995年度から三宅島周辺のカンムリウミスズメの調査を三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館を拠点に行なってきました。創立75周年を迎えた2009年度からは、伊豆諸島に活動範囲を広げ、残された繁殖地の保護、営巣地の増加や営巣環境の改善を目指して事業を進めています。

◆ 2021年度の主な活動 ◆

洋上調査	三宅島:4月18・25日
利用海域、潜水深度調査	神子元島:4月7～12日、5月15日
人工巣の設置など	神子元島:8月18日、11月20日、12月11日、3月25日
	鳥帽子島:2月24日
講演など	6月19日、2月25日
論文投稿	

当事業はF氏カンムリ基金、皆様からのご寄付、および日軽金アクト株式会社様からのご支援を基に実施いたしました。

カムリウミスズメの人工巣に新展開

● 神子元島

神子元島では、この数年で毎年プラスチック製の人工巣が利用されるようになりました。そこで、人工巣の利用率や製作や設置のしやすさ等を比較するため、2020年からアルミ製の、今年度から木製の人工巣も置き始めました。また、プラスチック製の人工巣については、利用率が向上する条件を明らかにするため、これまでの結果を基に設置場所や方法を工夫しました。カムリウミスズメは、人工巣においても1度使った巣を何度も使用します。しかし、設置の時に前回と違う方向に入口を向けると、設置場所が同じでも使わないといった傾向が分かってきました。試行錯誤が続いていますが、2021年の繁殖期も少しずつですが人工巣を使うカムリウミスズメを増やすことができました。

まだデータが少ないですが、利用されたものとされなかったものを比較し、利用率の向上を図っていきたいと思っています。



木製人工巣に向かうカムリウミスズメ (センサーカメラで撮影)

	設置数	産卵数	産座数
2021年繁殖期			
プラスチック製	19	3	5
アルミ製	2	2	0
木製	1	1	0
2022年繁殖期			
プラスチック製	19	—	—
アルミ製	2	—	—
木製	2	—	—



鳥帽子島への荷揚げ作業

	設置数	産卵数	産座数
2021年繁殖期	0	0	0
2022年繁殖期	23	—	—

● 鳥帽子島

2020年度は、新型コロナウイルス対応のため、鳥帽子島に人工巣を設置しなかったため、2021年度の春の繁殖期は人工巣による繁殖はありませんでした。

2021年度からは、長崎大学の学生による人工巣の設置方法による利用率向上と個体数に与える影響についての研究が、当会と協同で行なわれることになりました。設置数を増やし、置き方もこれまでにない方法を試すことになりました。海況が悪く延期に次ぐ延期でかなり遅くなってしまいましたが、2022年2月24日に長崎大学の先生と学生、北九州市立いのちのたび博物館の方と共に無事に設置を行なうことができました。結果は次の報告書に掲載予定です。

Pacific Seabird Group - virtual field tripで活動紹介

パシフィック・シーバード・グループ(PSG)は、太平洋の海鳥とその生息環境について研究と保護を進めるため、研究や保護活動に取り組む研究者や管理者が相互のコミュニケーションを深めることを目的に1972年に結成されたグループです。2021年2月25日に、on-lineで開催されたPSGのannual meetingのVirtual Field Tripで各国のサイト紹介の1つとして、カムリウミスズメの生息地で保護活動を行なっている日本野鳥の会と門川町がそれぞれ発表を行ないました。当会からは、2009年から伊豆諸島と神子元島で行なってきた調査や人工巣の設置作業の様子、野鳥の宝庫として有名な三宅島の野鳥について8分35秒でまとめた動画で紹介した後、参加者からの質問に対応しました。作成した動画はYouTubeチャンネルでご覧いただけます(QRコード)。



GPSロガーを使った行動調査

静岡県下田市にあるカムリウミスズメ繁殖地「神子元島」。帝京科学大学と共同でこの島で繁殖するカムリウミスズメがどこにエサをとりに行くかや、どれくらいの深さ潜っているかなどを調査しました。

2021年4月7～12日に、午後に渡船で島に渡って調査の準備をし、日が沈んでから日が昇るまでの間にGPSロガーの装着と再回収を行ないました。当会で4個、大学で8個のGPSロガーを装着し、それぞれ4個中2個、8個中3個からデータを得ることができました。

● カムリウミスズメの行動圏

データが回収できた5個体からは、15時間～30時間の位置情報を取得することができました。行動範囲は右図のように神子元島の東西に広がっていました。島から最も離れたのは約9kmの地点でした。各個体の位置記録からカーネル法で算出した95%のコアエリアの面積は3.2～77.5km²(平均35.9km²)で、水深250m以浅の海域で行動していたことが分かりました(森 他 2022)。2019年の調査では2個体の行動圏は東から北東方向へ広がっており、行動範囲はエサの分布により変化する可能性が考えられます。

● カムリウミスズメはどれくらい潜るのか

今回は1つで位置と潜水深度が記録できる機械を使用しました。4個体から計309回の潜水記録が得られました。記録から各個体の平均潜水深度は3.0～4.0mで、最大潜水深度は6.9～13.1mという結果が得られました。また、潜水は主に日中に行っていることもわかり、これらの事からカムリウミスズメは浅い水深を利用し、主に視覚に頼ってエサを採食しているのではないかと考えられました(森 他 2022)。

参考文献

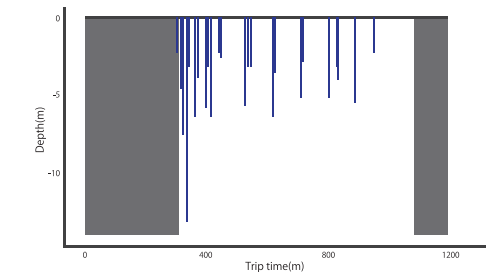
森貴久、手嶋洋子、田尻浩伸、山本誓士、古口大雅 2022. 風力発電建設計画地に繁殖するカムリウミスズメの海域利用の解明. 自然保護助成基金助成成果報告書vol. 31. 96-101.



GPSロガーを装着したカムリウミスズメ



GPSロガーで分かった行動範囲 Google Earth



YOK03の潜水記録。横軸はロガー装着後の時間、縦軸は潜水深度を示す。灰色部は夜間(日没～日出)を示す。(森 他 2022)

World Albatross Day & Seabird Week2021で活動紹介

2001年6月19日「アホウドリとミズナギドリ等の保全に関する協定(ACAP、日本は未加入)」が締結されました。その調印日を、毎年数千羽のアホウドリ、ミズナギドリなどの海鳥が死亡するなど、世界のミズナギドリ目の鳥が直面している危機を説明し、その保全が急務であることを呼びかけるための「世界アホウドリの日」とすることが提唱されました。日本では、2020年に世界アルバトロスデー&シーバードウィーク実行委員会が設立され、翌年の6月19日に講演会が開催されました。この中で海鳥の保全活動の1つとしてカムリウミスズメを取り巻く状況や当会の保護活動、繁殖地周辺のプラスチックゴミについて説明しました。プラスチックごみの問題については、当会HP「海洋プラスチックごみから、海鳥を守ろう」で紹介しています(QRコード)。

